



街かど gallery



広川町水原
池田 倭子

美しい風景を目にし、名画にふれた時、この感動を自分で描いてみたいと思つて水墨画の学習サークルに参加して七年、先生や仲間の皆さんの指導を頂きこれだけ長く続けることができました。このごろは季節の移ろいを目にした時、これは絵になるなと思わず考えるようになりまし。水墨画は人生と同じで奥が深く、描けば描くほど新しい発見があります。古希を迎えた今感慨深いものがあります。人生は喜、怒、哀、楽。いかにバランスをとって有意義な時間を過ごすか。節目、節目に目標を立てそれに向けて努力することが元気を保つことになります。墨画教室は七十年頑張った自分へのプレゼントです。悪戦苦闘しながらも仲間の皆さんと完成の喜びを共有できることで心が満たされます。これからも色々な事に前向きに取り組み、交流を深め、楽しみを増やしていきたいと思つています。墨画を生涯の友として絵筆を握っています。今は学ぶことが多くて幸せです。

私たち松原ライオンズは、昭和53年 松原小学校を拠点とし、創部34年となる伝統ある少年野球チームです。今年のモットー「一球一球を大切に最後まで全力プレー」を合言葉に、三笠監督の下 部員22名 日々練習や試合に一生懸命頑張っています。

楽しい仲間たち 松原ライオンズクラブ

会長 田代利徳

また、チームでの旅行（試合を含む）も毎年恒例となっております。練習日は 火・木・土・日・祝（松原小学校） 松原小学校区の野球が大好きな子、興味がある子は男女問わず随時部員募集しておりますので、ぜひ一度グラウンドに見学に来て下さい。



平戸 オニアラカブ

「暑さ寒さも彼岸まで・・・」お彼岸も過ぎ、日一日と深まる秋を気温の変化で感じながら、美味なる物を求めて海へ行ってしまう。終生釣りバカなのだろう（笑）。単に美味しい物なら実りの秋は種類も豊富だ。巨峰に梨に栗に柿などエトセトラ。敢えて松茸とは言うまい、いつ口に出るか自信がないから…（汗）。とある週末、前々から石鯛釣りを約束していたN村氏と長崎県の平戸島へ出かけたが、本命の石鯛様はご機嫌が悪かったのか、挨拶にも来てくれなかった…（涙）。しかし、悪い事ばかりではなかった。滅多に釣れないお魚様が来てくれたのだ。

「ボロは着てても～心は～錦～♪♪」そんな歌を思い出させてくれたのは、「鬼アラカブ」という怖そうな顔つきの魚だ。高級魚として名高い「オコゼ」の仲間だ。体中にトゲが出ていて、外敵を威嚇するかのとき鰓を纏っている。がしかし、身は白く淡白で歯ごたえがあり、一度食したら忘れられない味である。薄造りにポン酢にもみじおろしに小ネギの細切れで一気に・・・幸せを感じる事が出来た・・・。「アハハハ～マイウ～♪♪」なのだ！！

こんな美味しい魚なら毎週でも食べたい。そう思うと、週末の時間を何とかして空けたいのだが、行事の多いこの時期である。ジレンマと山の神に悩まされる…トホホホ（笑）。

しかし、内需拡大、消費拡大、景気浮揚の旗印の元、釣り師は海へ行かねばならないのである（汗）。

さて、東か西か、はたまた南か北か、またまた悩むなあ～（笑）。

磯の旅人

男の子焼きでテーブルコーディネート 八女農業高等学校

本校生活科学科3年生の「フードデザイン」選択者は、平成19年度から男の子焼き陶芸実習を行っています。毎年生徒が思い思いの器を作り、調理実習の時にテーブルコーディネートの学習の一貫として自作の皿や器に盛りつけを行います。今年は、簡単なおもてなし料理「巻ずし」を盛りつける予定です。また、農業の実習服を製作した後のかすりのはぎれを利用しランチマットやコースターも作りました。

★ 自分でお皿や箸置きなどを作るのは初めてでとても楽しみにしていました。私は細かい物を作るのが苦手なので不安でしたが、優しく丁寧に教えていただいたおかげで最後まで楽しく、無事にお皿や箸置きができました。（3年 北島 茜）

★ 私がデザインしたのは木の葉の形だったので簡単だと思っていましたが思うようにいかず、乾燥しひびが入ったりして凄く難しかったです。家でも活用したいと思っています。（3年 田中 陽子）



生徒の完成作品

（八女農みらい館）11月の開館日

1日（火）、4日（金）、8日（火）、11日（金）15日（火）、18日（金）、22日（火）、25日（金）29日（火）販売時間は、10時30分～15時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしております。

矢部川源流・杣の里の四季⑤

シマカンギク（キク科）



撮影場所は八女市矢部村御側「大杣公園」より少し登った「あいひめはし」から南へのびる林道でよく日の当たる場所。名前を漢字で書くと「島

寒菊」島で寒い季節に咲くキクの意味なので、この花は島ではなく山間部に咲く花。名前がふさわしくないと理由から「アブラギク」という別名がある。花を油に漬けて傷薬として使用していることに由来する。開花時期は10月下旬から寒さにめげず12月上旬まで長期間咲く。小さなかわいい花を沢山つけて咲くシマカンギクの群落はひときわ目立つ。（黒木町）松尾重根

眩き

できる子を求める前に



「のび太くんみたいな子が過ごしやすい学校にしたい」日本PTA大会で、現在教師をしている乙武洋匡さんが語った。勉強も運動も何をやってもダメで気が弱くて……そんな子でも楽しく過ごせる学校がいいと。そのためにはジグソーパズルを目指していると話す。パズルのピースは一つ一つ形が違う。出っ張っているのもあれば凹んでいるものもある。出っ張りとお互いにカバーしながらピースはぴったりと合わさって繋がっていく。一つでも欠けたら完成できない。人間だって一人一人見た目も特技も違い、乙武さんのように両腕のない人もいるし、苦手部分、得意部分を誰だって持っている。お互いにカバーし合いながら仲間というパズルを完成していくのだと話す。

「『元気で明るくたくましい子』こんな児童像を掲げている学校を見かけると残念な気持ちになります」

別の日の講演でそう話すのは女優の東ちづるさん。生まれつき体の弱い子、引込思案のおとなしい子……などは、そのスローガンからは外れる。そんな子ども達でも楽しく過ごしやす学校であるよう目を向けてほしいと話す。

現状はどうだろう。例えば全国的に民営化されていく保育園。楽器演奏が優れていることで有名な園では、発表会当日、吹けない子の笛を音の出ないようにしていたという事があった。ある園でも、運動会の整列が素晴らしく揃っていると評判の裏側には、子ども達が笑わなくなるくらい異常な訓練があったと聞いた。

どんな子でも生きやすい保育園、学校、世の中になっているだろうか。何より私達保護者が『できる子』に価値観を置き過ぎているのかもしれない。『できる』を求める前に、まずはその子のありのままを認め受け止める家庭でありたい。そんな思いを私達PTAに提起した二人の講演だった。（森 志穂）